

国 語 問 題

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 28 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙（マークシート）の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙（マークシート）の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。

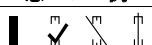
5. マーク解答欄記入上の注意

- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

20

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

良い例	悪い例
	

解答 番号	解					答					欄				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
20															

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
- (3) 解答用紙へのマークはすべて H B のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧によく消し、消しくずはきれいに取除いてください。
- (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
- (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
7. 試験時間中に退場することはできません。
8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次は、絶滅という観点から生物の進化をとらえた吉川浩満『理不尽な進化』の第二章からの文章である。この文章を読んで、後の設問に答えなさい。

第一章では、古生物学者^{*1}デイヴィッド・ラウプによる絶滅にかんする調査と考察が、次のことを教えてくれた。これまで地球上に現れた生物種の九九・九パーセントが絶滅したということ、生物種はたいてい（遺伝子ではなく）運がわるくて絶滅するということだ。

そこで詳しく見たように、運がわるくて絶滅するとは、理不尽な絶滅をするという意味だ。それは、能力（遺伝子）を競うゲームが、運によってもたらされるような事態である。ゲームの中身は公正かつ公平なものであっても、ゲームへの参加自体が不公平かつ不公平なしかたで強制される。それはある種の（というか文字どおりの）サヴァイヴァルゲームではあるけれど、生物の実績や能力（遺伝子）と関係なく存亡のルールが設定されるという、不正と不公平に満ちたサヴァイヴァルゲームだ。生物はこのような奇妙なゲームのプレイヤーとして、理不尽なしかたで絶滅し、あるいは生き延びて進化するのである。

でもそれは、⁽¹⁾私たちがふだん抱いている進化のイメージとはずいぶん異なる。もつといえ、それは私たちの日常的な進化観とは相容れないように感じるのではないだろうか。私たちはふつう、この世界は優れたものだけが生き延びられるゲームの舞台であり、そこでなされる競争や切磋琢磨^(a)によって生物は進化するものと考えているのだから。

そもそも、もし進化がそんなに理不尽なものとしたら、良識をそなえた近代人たる私たちがシンボウ^(ア)する進化論の思想、とりわけ自然淘汰^{とうた}の原理はどうなるのか。進化論の根幹をなす自然淘汰説の考えを、私たちは常識として基本的に受け入れている（自分は受け入れないぞという人もいるかもしれないが、その場合、少なくともその意見は「非常識」なものとして扱われるだろう）。A この常識が想定する進化の舞台は、競争と闘争を通じた優勝劣敗の掟が支配する能力主義の世界だ。それは運や理不尽さといった不確定な要素とはやはり相容れないように思われる。生物の存亡が運や理不尽さに左右されているのだとしたら、誰が生き残るべきかを決める優劣の基準そのものが無効になってしまうのではないか。理不尽な絶滅（と生存）の本質的特徴は、生物の存亡はその能力の優秀さ（遺伝子）には還元できない（し、運にも還元できない）という点にあるのだから。

でも、あの高名な自然淘汰説はまちがいだなんていうことがあるのだろうか。理不尽な絶滅と生存の話を実に受けたなら、そんな疑問が生じて

くるかもしれない。あるいは逆に、生物種が運のせいで絶滅したり存続したりするなんて、やっぱり世迷い言なんじゃないかと思ひ直すことになるかもしれない。

この疑問には、模範的な解答がある。それは、自然淘汰も理不尽な絶滅／生存もどちらも正しい、というものだ。これは、どちらにも言い分はあるとか、どちらにも一分の理があるということではない。そうではなく、どちらも全面的に、一〇〇パーセント正しい、という意味だ。自然淘汰説を正しく理解すれば、このような結論にならざるをえないし、これ以外の回答こそ世迷い言である。

では、自然淘汰説を正しく理解するとはどのようなことか。それは、「適者生存」という言葉にあるとおり、生き延びて子孫を残す者を、まさしく適者として理解するということだ。生存するのは、強者（強い者）でも優者（優れた者）でもなく、あくまで適者（適応した者）であると理解するのである。これは言葉^(b)を字面どおりに理解するというだけのことで、当たり前といえば当たり前前の話なのだが、私たちの日常的な理解にとっては、必ずしも当たり前^(c)前のことではない。

私たちは多くの場合、生き延びて子孫を残すべき存在を、強者とか優者としてイメージしている。強いものが弱いものを食い物にするとか（弱肉強食）、優れたものが劣ったものを駆除する（優勝劣敗）といったイメージだ。でも、こうした弱肉強食や優勝劣敗のイメージは、あくまで人間が自然や野生といった概念にたいして抱く印象や願望のハンエイにすぎない⁽¹⁾。私たちがふだん抱いている進化論のイメージは、大部分がこうした印象や願望、あるいは失望を投影したものだ。

B 本来の自然淘汰説のアイデアが教える適者は、人間的観点から見た強者や優者とはさしあたり関係がない。つまり自然淘汰は、弱肉強食でも優勝劣敗でもない。自然の世界で適者であるための条件は、生き延びて子孫を残すということだけだ。それを弱肉強食や優勝劣敗の掟で包み込むのは、自然淘汰の原理を人間の勝手な価値観（多くは時代の要請）とすりかえる誤りである。

この模範解答は、じつは第一章で見た理不尽な絶滅シナリオがもたらす教訓のひとつだということもできる。理不尽な絶滅シナリオは、自然淘汰説にたいする反証ではなく、**C** 自然淘汰説を適切に理解するためのステップになるということだ。

強者や優者^(ウ)としか思えないような生物種が、環境の変化などによって不利な立場に追い込まれ、果ては絶滅にいたってしまうことがある。恐竜や三葉虫の絶滅はそのケンチヨな例^(ウ)だった⁽³⁾。対照的に哺乳類は、長いこと割を食ってきた典型的な弱者あるいは劣者に見えるにもかかわらず、大量絶滅事変が後の繁栄への足がかりとなった。

ある生物がどれほど高い能力をそなえているように見えようと、それが環境にフィット（適応）しなければ、生存と繁殖に資することはないということだ。そして環境にフィットしているかどうかは、実際に生物が生き残り子孫を残すことができるかどうか、そのみによって判定される。自然淘汰によって生き残る者とは、あくまで結果として生き残り、子孫を残す者（あるいはそう予想される者）を指すのである。

自然淘汰をこのように理解すれば、先の疑問——自然淘汰と理不尽な絶滅／生存のあいだにある齟齬^{*2}——は解消される。生物の歴史において、いかに理不尽な絶滅（と生存）が起ころうとも、それは自然淘汰の原理を脅かすものではない。⁽⁴⁾ サヴァイヴァルゲームのルールがその都度あらたに設定しなおされるだけのことなのである。

進化の理不尽さは、ゲームのルールが勝手に変更される事態を指すのであって、そこでは自然淘汰の原理が破棄されるわけではない。あるいは、こんな言い方もできるかもしれない。生物の歴史においては、「強者生存」「優勝劣敗」という（人間的な印象による）能力主義が否定されることはあっても、自然淘汰という（結果として生き残り、子孫を残す者が適者であるという）成果主義が否定されることはない、と。そう考えれば、自然淘汰も理不尽な絶滅／生存も、どちらも全面的に、一〇〇パーセント正しいということになる。

D 理不尽な絶滅は自然淘汰の原理と同列に論じられるようなものでもない。自然淘汰と理不尽な絶滅／生存とは事柄の性質が本質的に異なっている。前者は進化のメカニズムを指す言葉だが、後者はそうしたメカニズムとは関係のない突発的な事件を指す（だからこそ、それによって起こる絶滅が理不尽な絶滅となる）。ダイナマイトを満載した自動車が爆発すると、車のエンジンは動かなくなるだろうが、その原因をエンジンのメカニズムに求めても仕方がない。それは車の機能やエンジンのメカニズムとはさしあたり関係のない、ダイナマイトの爆発という突発的事件によってもたらされたのだから（熱心なエンジニアであれば、そのときエンジンがどのように破損したかを調べるかもしれないが、それはまた別の話）。

理不尽な絶滅（というより絶滅一般）は、それ自体としては生物種が死に絶えるという出来事を指しているにすぎず、いかなる意味においても進化を生み出す力ではない。それにたいして自然淘汰はその力をもつ。^{*3} ドーキンスの諸著作でお目にかかるような生き物たちの精妙な仕組みや生態は、自然淘汰によるものにほかならない。絶滅は、進化の過程に（種を除去するというかたちで）消極的・否定的・非生産的に介入するにすぎない。適応的進化を生み出す自然淘汰の積極的・肯定的・生産的な力とは対照的である（しかしそのことが自然淘汰による革新的進化の作業場になることは先にも述べたとおりだ）。その意味で、絶滅という出来事と自然淘汰のメカニズムとは、たがいにまったく外的な関係にあって混ざり

合うことがない。いわば地と図のような関係なのである。

このように、第一章で見た進化の理不尽さを真に受けるならばなおさらのこと、生物の多様性を理解するためには自然淘汰のアイデアを堅持する必要がある、そう私は考えている。もし自然になんらの規則性も一貫性もなかったなら、自然淘汰の重要性は怪しくなるだろう。でも、実際の自然には突発的な激変があるかと思えば、複雑な適応的進化を可能にするだけの規則性や一貫性もあるのである。

(吉川浩満『理不尽な進化』より。出題にあたって、本文を一部改変した。)

*注1 デイヴィッド・ラウプ (1933ー2015) アメリカの古生物学者で、生物の多様性などについて研究する中で、大量絶滅

に関する理論を提唱した。

2 齟齬(そご) 物事がうまくみ合わないこと、くい違うこと。

3 ドーキンス リチャード・ドーキンス(1941ー) イギリスの進化生物学者・動物行動学者で、進化論に関する著作を多数執筆している。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 1

(イ) 2

(ウ) 3

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 匿
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 底
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答 ③ ⑦

(ア) シンポウ

- ① 心
- ② 真
- ③ 信
- ④ 伸
- ⑤ 進
- ⑥ 奉
- ⑦ 方
- ⑧ 包
- ⑨ 報
- ⑩ 法

(イ) ハンエイ

- ① 汜
- ② 反
- ③ 半
- ④ 汎
- ⑤ 範
- ⑥ 衛
- ⑦ 英
- ⑧ 影
- ⑨ 營
- ⑩ 映

(ウ) ケンチヨ

- ① 謙
- ② 嫌
- ③ 顕
- ④ 賢
- ⑤ 献
- ⑥ 緒
- ⑦ 箸
- ⑧ 貯
- ⑨ 著
- ⑩ 嘲

問二 傍線部(a)・(b)の本文中での意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a)

4

(b)

5

(a) 切磋琢磨

- ① 自分自身の行動を振り返り、反省すること
- ② 相手の技術や能力を観察し、模倣すること
- ③ 相手の弱みを探し出して、論破すること
- ④ 互いに利用し合いながらも、成長すること
- ⑤ 互いに影響しあい、技術や能力を高めること

(b) 字面どおり

- ① ものごとの本質をとらず表面的であること
- ② 最初に起こったまま変わらない姿であること
- ③ 説明が具体的でなくあいまいであること
- ④ 書かれている文字の意味そのままであること
- ⑤ 文章や文字で表せない広い意味を含んでいること

問三 空欄 A ・ B ・ C ・ D に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマ

クしなさい。

6

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-------|---|------|
| ① | A | たとえば | B | むしろ | C | したがって | D | しかも |
| ② | A | なぜならば | B | いかにも | C | しかし | D | また |
| ③ | A | そして | B | 他方で | C | むしろ | D | とはいえ |
| ④ | A | かりに | B | すると | C | むろん | D | あるいは |
| ⑤ | A | ところで | B | まさしく | C | さらに | D | たとえば |

問四 傍線部(1)「わたしたちがふだん抱いている進化のイメージ」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の

①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 生物の進化は、生存競争への参加を希望したものに認められるということ
- ② 生物の進化は、理不尽な絶滅をもたらす場合があるということ
- ③ 生物の進化は、その実績や能力の優劣とは関係がないということ
- ④ 生物の進化は、競争の結果、優れたものだけが成し遂げること

問五 傍線部(2)「自然淘汰は、弱肉強食でも優勝劣敗でもない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 競争と闘争を通じた優勝劣敗が生存するためのルールであるから
- ② 生物は高い能力を持っていても環境に適応していなければ繁殖できないから
- ③ 生物は環境の変化などにより不利な立場に追い込まれやすいから
- ④ 生物の絶滅は進化の過程に消極的に介入していると考えられるから

問六 傍線部(3)「対照的に哺乳類は、長いこと割を食ってきた典型的な弱者あるいは劣者に見えるにもかかわらず、大量絶滅事変が後の繁栄への足がかりとなった」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 捕食者である恐竜の大量絶滅後、哺乳類が様々な環境変化に適応して子孫を残し繁栄していったということ
- ② 恐竜に対して弱者であった哺乳類が、大量絶滅事変に際しての進化により捕食者となっていったということ
- ③ 恐竜に食物を奪われ十分な栄養をとれなかった哺乳類が、少ない栄養でも生存できるように進化したということ
- ④ 恐竜に対して弱者であった哺乳類が、大量絶滅事変で弱体化した恐竜よりも強い個体に進化したということ

Ⅱ 次の文章は井上ひさしの戯曲『父と暮せば』の一部である。福吉美津江は、昭和二〇年八月六日、広島の自宅の庭で父である竹造とともに被爆した。竹造はひどい火傷を負った上、倒壊した家屋の下敷きとなって亡くなった。三年後、美津江は、司書として勤める図書館に、収集した原爆関係の資料の保存を求めてやってきた木下という青年と知りあい恋心を抱くようになる。ちょうどそのころ美津江の前に亡くなったはずの竹造が生前の姿で現れるようになり言葉さえ交わすようになる。以下はそれに続く場面である。よく読んで、後の設問に答えなさい。

竹 造 どうして人を好いちゃいけんいうんじゃ。たしかにおまいは人がたまげてのけぞるような美人じゃ^{ない}。そいの半分はわしの責任でもある。じゃけん、よう見りや愛キ^アヨウのあるええ顔立ちをしとるけん、そいはわしの手柄じゃ。

美津江 なにいうとるんね。

竹 造 つずまり、木下さんがそれでええいうてくれんさつとるんじゃけん、その顔でええんじゃ^{ない}か。

美津江 ⁽¹⁾ そういうことじゃ^{ない}いうとるでしょう。

竹 造 ……もしかしたら原爆病か。あいつがいつ出てくるかもしれんけん、そいで人を好いちゃいけん思うとるんじゃ^{ない}な。

美津江 (頷^{うなず}いてから) じゃが、木下さんが、そのときは命がけで看病してあげるいうてくれちゃったです。

竹 造 なんな、ずいぶん話は進んどるんじゃ^{ない}か。(ひらめいて) そうか、生まれてくるねんねん^(イ)のことが心配なんじゃ^{ない}な。たしかに原爆病はねんねんにも引き継がれることがあるいうけん、やれんのう。

美津江 (頷^{うなず}いてから) そのときは天命じゃ^(イ)思うて一所^(イ)ケン命、育てよう……、

竹 造 そいも木下さんのお言葉かいの。

美津江 遠回しにじゃけど、そがあいうとられとつてでした。

竹 造 遠回しであれ近回しであれ、そこまで話し合えるちゅうことは……、もう、わしや知らんが。⁽²⁾

美津江 そいじゃけん、いっそう木下さんと会^あうちゃいけんのです。

竹 造 ほんじゃなにか、⁽³⁾ うまいこと行きやあうまいこと行くほどうまいこと行かんちゅうんか。

美津江 あ、それはいえとる。

竹 造 たいがいにとかんと、わしでもほんまに怒るで。話が一昨々日と明々後日とあべこべの方角を向きよって、ついでにでんぐり返りやらさかとんぼやら打つとるけえ、なにがなにやらようわからん。

美津江 (これまでにないような改まった声で) ここへ坐つてくれんさいや。

竹 造 ……はい。

竹 造、思わず美津江の前に坐すわつてしまふ

美津江 うちよりもっとえつとしあわせになつてええ人たちがぎょうさんおつてでした。そいじゃけえ、その人たちを押しつけて、うちがしあわせになるいうわけには行かんです。うちがしあわせになつては、そがあな人たちに申し訳が立たんですけえ。

竹 造 そがあな人たちいうんは、どがあな人たちのことじゃ。

美津江 たとえば、福村昭子さんのような人……。

竹 造 福村……、ちゅうとあの？

美津江 (頷*₁いて) 県立一女*₂から女専までずうつといつしよ。昭子さんが福村、うちが福吉、名字のあたまがおんなじ福じゃけえ、八年間通して席もいつしよ、陸上競技部もいつしよ。じゃけえ、うちらのことを二人まとめて「二福ふたふく」いう人もおつたぐらいでした。

竹 造 二人じゃけええかつたんじゃ。もう一人二人、福の字のつくんがおつてみい、まとめて「お多福」、いわれとつたかもしれんけえな。

美津江 (耐えて) ……女専で昔話研究会をつくつたんもいつしよ。昭子さんが会長で、うちが副会長でした。はなしをいじっちゃいけんちゃう根本方針も二人で話し合あうて決めたことじゃつたですけえ。

竹 造 ほいであよに頑張がんつとつたんか。

美津江 ほうじゃが。

竹 造 成績せいせきもしじゅうせつ(ウ)とつたけえのう。

美津江 (首を横に振る) 駆けつこならとにかく、勉強では一度も昭子さんを抜いたことがのうて、うちはいつとも二番。これはたぶん、お

とつたんのせいじゃ。

竹造 ……いきなりいびつちやいけない^{めん}。

美津江 なによりもきれいかったです、一女^A、女専^A いうて囃^{はや}されてね。

竹造 あの娘^このおかやんの方がきれいかったんとちがうか。裁縫塾をしとつてで、おまけに未亡人で、あの人の前へ出ると、なんでかしらん、よう口が利けんのじゃ。

美津江 はいで手紙を書いとつたんやね、お米や鮭缶や牛缶つきの。「この春こそはごいっしよに比治山の夜桜を見たい思うとります福吉屋の竹造より。福村静枝様まいる」……。

竹造 どうしてそのようなこと知つとるんじゃ。

美津江 昭子さんが見せてくれたんです、「まいる、いう脇付けはすこしおかしいんとちがう」いうてね。

竹造 ……おかしいですか。

美津江 「まいる」は ^B が使う脇付けじゃけえね。

竹造 そんなもんを公開しちゃいけないがな。見かけによらず人の悪い後家さまじゃ。

美津江 うちには実のおかやんのようにやさしゅうしてくれんさったわ。

竹造 そいじゃけえ、おまいのほんまのおかやんになつてくれたらよかつたいうとるんじゃ。福村から福吉へ一字変えれば^{りやい}すむことじゃけえのう。

美津江 (耐えて、改まつて)⁽⁴⁾ 昭子さんこそしあわせにならにやいけん人じゃったんです。

竹造 じゃけえ、どうしてか訊^きいとるんじゃ。

美津江 うちより美しゅうて、うちより勉強ができて、うちより人望があつて、ほいでうちを、⁽⁵⁾ ^{*3} ピカから救うてくれんさった。

竹造 ピカから、おまいを？

美津江 (大きく頷いて) うちがこよに生きておれるんは、昭子さんのおかげじゃけえの。

竹造 突飛をいいよる。あんとき、うちの庭にはわしとおまいの二人しかおらんかつたはずじゃ。どこに昭子さんがおつたいうんかいね。

美津江 手紙でうちを救ってくれんさったんよ。

竹 造 手紙で……？

美津江 あのころ昭子さんは県立二女の先生。三年、四年の生徒さんを連れて岡山水島の飛行機工場へ行つとられたんです。前の日、その昭子さんから手紙をもらうたけえ、うれしゅうてならん、徹夜で返事を書きました。ほいで、あの朝、図書館へ行く途中で投函しよう思うて、うち、こよに厚い手紙を持つて庭を裏木戸の方へ歩いとった……。

竹 造 わしはたしか縁先におった。一升瓶につめた玄米を棒で突いて白くしとったんじゃが、石灯籠のそばを歩いとったおまいを見て、「^き気をつけて行きいよ」……。

美津江 (頷いて) その声に振り返つて手をふった。そんなときじゃ、うちの屋根の向こうに^{*4}B 29と、そいからなんかキラキラ光るもんが見えよったんは。「おとったん、ビーがなんか落としよったが」

竹 造 「空襲警報が出とらんのに異^いな気な^{なげ}ことじゃ」、そがあいうてわしは庭へ下りた。

美津江 「なに落としよったんじゃろう、また謀^ま略^{りゃく}ビラかいね」……。見とるうちに手もとが留守になつて石灯籠の下に手紙^{てがみ}を落としてしもうた。「いけん……」、拾おう思うてちょこんだ。そのとき、いきなり世間^{しよけん}全体が青白うなつた。

竹 造 わしは正面から見てしもうた、お日^ひさん二つ分の火の玉をの。

美津江 …… (かわいそうな) おとったん。

竹 造 真ん中はま^まぶ^ぶしい^いほどの白で、周りが黄色と赤を混ぜたような気味^{きび}の悪い^{わるい}色の大きな輪^{りん}じゃった……。

少しの間。

竹 造 (促して) ほいで。

美津江 その火の玉の熱線からうちを、石灯籠が、庇^{かば}うてくれとったんです。

竹 造 (感動して) あの石灯籠がのう。ふーん、値の高いだけのことはあつたわい。

美津江 昭子さんから手紙をもらうとらんかったら、石灯籠の根方^{ねかた}にちよごむこともなかった思います。そいじゃけえ、昭子さんがうちを救うてくれたいうとったんです……。

いきなり美津江が顔を覆う。

竹 造 ……どうしたんじゃ？

美津江 昭子さんは、あの朝、下り一番列車で、水島から、ひよっこり帰ってきとつてでした。

竹 造 (ほとんど絶句) なんな……。

美津江 夜の補習のために、謄写版道具一揃いと藁^{わら}半紙千枚、そよなものがひよっこり要るようになって、学校へ受け取りに来られたんです。

竹 造 ほいで、どうした？ まさか……。

美津江 西観音町^{にしかんおんまち}のおかあさんとこで一休みして、八時ちよつきりに学校へ出かけた。……ピカを浴びたんは、千田町^{せんだまち}の赤十字社支部のあたりじゃったそうです。

竹 造 (唸る) うーん。

美津江 昭子さんをおかあさんが探し当てたのが丸一日あとでした。けんど、そのときにはもう赤十字社の裏玄関の土間に並べられとった……。

竹 造 なんちゅう、まあ、運^なのない娘^なじゃのう。

美津江 (頷きながらしゃくり上げ) モンペのうしろがすっぽり焼け抜けとったそうじゃ、お尻が丸う現れとったそうじゃ、少しの便が干からびてついとったそうじゃ……。

少しの間。

竹 造 もうええが。人なみにしあわせを求めちゃいけんいうおまいの氣持が、ち^ちい^{いた}とは分^わかったような氣がするけえ。

美津江 ……。

竹 造 じゃがのう、こうよな考え方もあるで。昭子さんの分までしあわせにならにやいけんいう考え方が……。

美津江 (さえぎって叫ぶ) そよなことはできん！

竹 造 なひてでせん？

美津江 昭子さんのおかあさんとの、……約束があるけえ。

竹 造 約束……？

美津江 (頷いて) 約束のようなもの……。

竹 造 どうよな約束いうんじゃ？

美津江 ……昭子さんのおかあさんに会^あうたんは、ピカの三日あと、八月九日の午後遅くのことじゃった。……ピカの日、うち、広島から宮島へ逃げて、九日の朝まで、堀内先生のうちで厄介かけとったけえ。

竹 造 堀内先生？ どつかで聞いたような……。

美津江 女学校のときの生花の先生じゃ。

竹 造 おお、あの年寄り先生か。

美津江 (頷く) ……。

竹 造 ええ先生がおられて、えかつたのう。

美津江 先生にはげまされて、朝、宮島をたつて、魚を焼くような臭いのたちこめる中を、昼ごろ、うちに着いた。

竹 造 (いたわるように) きれいに焼けとつたらう。

美津江 泣き泣きおとつたんのお骨を拾いました。

竹 造 ……ほうじゃったな。いや、ありがとありました。

美津江 そいから西観音町の昭子さんところへ行つたんじゃが、あそこいらもすっぱり焼けとつて、うちが訪ねたときは、おかあさんは防空壕^{こうごう}の中で寝ておいでじゃった。背中に非常に^{じょうに}大きな火^{いか}ぶくれを背負つておいで、腹ばいになってげつしやりなさつとつた……。

竹 造 むごいことよの。

美津江 おかあさんはうちの顔を見てごつうによるこんで、ぶらあ起き上がると、うちを力いっぱい抱きしめて、よう来てくれたいうてくれんさった。ところが、昭子さんのことを話してくださつとるうちに、いきなりおかあさんの顔色が変わって、うちを睨みつけて（言えなくなる）……。

竹 造 どうなさったんいうんじゃ。

美津江 「なひてあんたが生きとるん」

竹 造 ……！

美津江 「⁽⁶⁾うちの子じゃのうて、あんたが生きとるんはなんでですか」。

*注1 県立一女 旧制の広島県立第一女学校

2 女専 旧制の女子専門学校

3 ピカ 原子爆弾、また、その破裂のこと

4 B 29 第二次世界大戦当時のアメリカ陸軍の爆撃機

5 謀略ピラ 日本の一般市民の抗戦意識を低下させるような内容が書かれた紙切れ。アメリカ軍が飛行機からまいた。

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナ部分と同じ漢字を使っているものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(ア) 11

(イ) 12

(ウ) 13

(ア) 愛キヨウ

① 恭順

② 愛好

③ 恩恵

④ 敬語

⑤ 享受

(イ) ケン命

① 懸案

② 賢者

③ 実験

④ 立憲

⑤ 顕彰

(ウ) セつとつた

① 切迫

② 競技

③ 争奪

④ 並走

⑤ 追跡

問二 空欄 A・B に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

(A) 14

(B) 15

(A) 一女 A、女専 A

① 美人

② 御前

③ 式部

④ 小町

(B) 「まいる」は B が使う脇付けじゃけえね。

① 目上の者

② お坊さん

③ 女性

④ 子ども

問三 傍線部(1)「そういうことじゃない」とあるが、美津江が言いたいののはどのようなことか。その内容として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① 父親がいうように親しみやすくかわいらしい顔立ちであるとしても、恋愛関係で大切なのは外見ではないということ
- ② 木下が自分をどのように思っているかではなく、自分自身がいちばん好きな男性と恋をしたいということ
- ③ 父親がいうほどに親しみやすくかわいらしい顔立ちではなく、とうてい木下の気にはいらなだろうということ
- ④ 容姿に対する劣等感から、愛される自信がなかったり、傷つくことを恐れて恋愛に踏み切れなかったりするわけではないということ

問四 傍線部(2)「もう、わしや知らんが」とあるが、これは竹造のどのような気持ちを表しているか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- ① 木下との恋愛関係が、父親である自分の心配をよそに、予想以上に深まっていることを自ら口にする娘を冷やかすような気持ち
- ② 親が知らないのいいことに、自由奔放に木下との恋愛関係を推し進めていく娘を気づかい、たしなめる気持ち
- ③ 被爆者の苦しみを十分に理解しているとは思えない木下に心を寄せていく娘のさきゆきを案じ、心配する気持ち
- ④ 口では原爆で亡くなった人々に申し訳ないといいながら、実際には幸せをつかもうとしている娘の矛盾した行動を責める気持ち

問五 傍線部(3)「うまいこと行きやあうまいこと行くほどうまいこと行かん」とは、具体的にはどのようなことをいつているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① 自分への愛を口にし、結婚への積極的な姿勢を見せれば見せるほど、将来襲ってくるかもしれない様々な原爆にまつわる困難に対してあまりに木下が楽天的であるという気持ちが高まるということ
- ② 木下との恋愛関係が進展していく幸福感を味わえば味わうほど、そのような幸せを味わう機会を奪われた死者たちへの後ろめたさから、恋愛関係の進展を押しとどめようとする衝動が高まるということ
- ③ 容姿がそれほど美しくなく、学校の成績もいつも昭子に一步及ばなかった自分に、木下が積極的な姿勢を見せれば見せるほど、何か下心があるのではないかという疑念が高まるということ
- ④ 木下が、将来予想される原爆病などの困難に立ち向かう決意を語れば語るほど、こんなにやさしく、気立てのよい人に苦勞をかけては申し訳ないという気持ちが高まるということ

問六 傍線部④「昭子さんこそしあわせにならにゃいけん人じゃったんです」とあるが、なぜ美津江はそう思うのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① この世は偶然が支配しており、すべての出来事は、何の脈絡もなく、その時その時で変化していくものであると信じており、そのような考え方にたてば、昭子が自分よりも幸せになっても何の不思議もないから
- ② 人間には生まれもった運命というものがあり、それは人間の力によつては左右できないものであると信じており、昭子は、幸せになるべき運命を背負っていると感じていたから
- ③ 人間の幸不幸はその人の努力次第で決まるという信念をもっており、そのような信念からすれば、不断の努力を怠らなかつた昭子が悲惨な死という不幸にみまわれるのは道理に合わないから
- ④ この世には合理的な秩序が有り、すべての出来事は、しかるべき因果関係によつて結ばれていると漠然と信じており、そのような考え方にたてば、昭子の死という不幸は、説明がつかず、納得がいかないから

問七 傍線部⑤「ほいでうちを、ピカから救ってくれんさった」とあるが、それは具体的にはどういうことをいつているのか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① もし自分の方が昭子より成績がよかったら、女学校の教師と図書館の司書という立場が入れかわっていたかもしれない。そうになっていたら、自分が昭子のように原爆によって死に、昭子が運良く助かっていたかもしれないということ
- ② 昭子は、図書館勤めをしていて勤労働員のかからない美津江のような人間のいわば代理として、水島の工場へ行っていた。そのため授業時間が削られ、その補習の準備をするために学校へ行こうとして被爆したということ
- ③ 原爆破裂の瞬間に昭子への返事の手紙を拾おうとしてしゃがんだので、石灯籠が遮蔽物となつて熱線や爆風に直接さらされなかった。そのような結果は、昭子の手紙をくれたからこそもたらされたものだということ
- ④ 昭子が原爆によって亡くなる直前に、忙しい合間を縫うようにして手紙をくれた。自分も被爆したが、そのようにいつも自分を気づかせてくれた昭子の優しさを支えにしてこれからも生きていけるということ

問八 傍線部(6)「うちの子じゃのうて、あんたが生きとるんはなんですか」という昭子の母の言葉には、彼女のどのような気持ちが込められて

いると思われるか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

① 女学校の生徒を連れて広島から水島の工場へ勤労働員に行っていたはずの自分の娘がなぜか広島で被爆死しており、もともと広島にいた美津江が生き残っている理由を知りたいという切実な気持ち

② 娘の無残な死に方をまのあたりにして悲嘆にくれている自分の前で、まるで原爆による死を免れた自分の運の強さを勝ち誇るかのようふるまう美津江に対して、おさえがたい怒りをおぼえている気持ち

③ 美津江が現れたことによって、同じように成長してきた、まだ年若い自分の娘が突然奪われてしまったという事態の不条理さに、改めて直面させられ、やり場のない憤りと悲しみを抑えきれなくなった気持ち

④ いつも成績が一番良くて、美しさもきわだっていた自分の娘が死に、自分の娘より成績も容貌も劣っている他人の娘が生き残っているという事態に不審を抱き、何らかの不正が行われたに違いないと強く疑う気持ち

問九 本文全体を通読して、木下と出会った美津江の前にもう死んだはずの竹造を登場させ、美津江と対話させている作者の意図はどのようなもの

のであると思われるか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

① 木下に出会ってから、美津江の中では死者の無念の思いに寄り添うあまり、幸せになることを自ら拒否する感情と、恋を成就させ幸せになりたいという生への意欲とがせめぎ合っているが、後者の思いを父である竹造の口を借りて言わせている。

② 原爆投下によって亡くなった二十万の人々の霊魂があつたら、それぞれなぜ自分が、このような悲慘な死をとげねばならなかったのかを知りたいと思うはずだから、その代表として竹造を登場させることにした。

③ 竹造は、生前ひそかに昭子の母である福村静江との再婚を望んでいたが、その思いがかなわなかった。美津江にだけは同じような失恋の痛手を負わせまいという竹造の父性愛の強さをこのような形で表現した。

④ じつは竹造は死んではおらず生きているのだが、被爆したときの竹造のあまりに悲慘な姿を見た美津江の衝撃の強さ、心の傷の深さを父親は死んだと思いいこんでいることで表現している。

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 次の(1)～(3)に示した熟語の対義語を完成するために、解答例にならない、それぞれ①～⑧の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、
 順番は無視して、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(1) 23

(2) 24

(3) 25

(解答例) 拡大 $\updownarrow$

- ① 小
- ② 尺
- ③ 縮
- ④ 弱
- ⑤ 減
- ⑥ 贈
- ⑦ 刷
- ⑧ 少

(1) 承諾 $\updownarrow$

- ① 放
- ② 否
- ③ 耐
- ④ 乏
- ⑤ 受
- ⑥ 拒
- ⑦ 推
- ⑧ 逆

(2) 自慢 $\updownarrow$

- ① 害
- ② 謙
- ③ 慮
- ④ 低
- ⑤ 下
- ⑥ 肯
- ⑦ 虐
- ⑧ 卑

(3) 完全 $\updownarrow$

- ① 欠
- ② 徐
- ③ 無
- ④ 充
- ⑤ 不
- ⑥ 如
- ⑦ 亡
- ⑧ 負

答 ① ③

問二 次の(1)～(4)に示した語句の中には、四字熟語として誤っているものが一つずつ含まれている。それらを正しい四字熟語とするために訂正すべき漢字をそれぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 26 (2) 27 (3) 28 (4) 29

(解答例) 危機一髪 一日千秋 一意攻苦 一挙良得

① 希 ② 由 ③ 佳 ④ 許 ⑤ 両

答 ⑤

(1) 一心同体 新真気鋭 辛勞辛苦 意味深長

① 身 ② 慎 ③ 伸 ④ 信 ⑤ 進

(2) 一触即発 一騎当千 意気当合 意気消沈

① 起 ② 祈 ③ 投 ④ 速 ⑤ 深

(3) 荣枯盛衰 温古知新 頑固一徹 孤城落日

① 虎 ② 湖 ③ 個 ④ 故 ⑤ 己

(4) 試行錯誤 玉石混交 巧言令色 紅顔無恥

① 厚 ② 香 ③ 幸 ④ 公 ⑤ 抗

問三 次の(1)～(3)の言葉の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 30

(2) 31

(3) 32

(1) 役不足

- ① 役目を与えられて能力に不安を感じる事
- ② 役目を与えられているのに能力が不足している事
- ③ 能力があるのに与えられた役目を果たせずにいる事
- ④ 能力に対して与えられた役目が重すぎる事
- ⑤ 能力に対して与えられた役目が軽すぎる事

(2) 情けは人の為ならず

- ① 情けを人にかけておけば巡り巡って自分によい報いがある事
- ② 困った人に情けをかけたところで自分には何の得にもならない事
- ③ 情けは人の為だけではなくすべての生物にかけるべきだ事
- ④ 困った人に情けをかけてもその人の為にならない事
- ⑤ 情けを人にかける時には周囲の目にも気にする必要がある事

(3) 天地無用

- ① 物の上下を逆さまにしてはいけないということ
- ② 物の上下を逆さまにしても大丈夫ということ
- ③ 天と地ほどの距離は離れていないということ
- ④ 身分の上下は無関係だということ
- ⑤ 身分の上下が重要だということ